

保育座談會

——遊戯、唱歌について——

五月一日午後二時から。東京女子高等師範學校附屬
幼稚園にて。

出席者 倉橋教授、堀主事、各保母

神原 座談會が、だいぶ長いことお休みになつて居りました。この前、一月の座談會の「遊戯について」はまだ十分に話し盡されてゐないようです。すから、唱歌と合せて「遊戯、唱歌」として、今日の問題にお願ひ致します。

新庄 遊戯についても少しお伺ひしたいと思つてゐましたの。

神原 前回は、「遊戯」の現状を土臺としてのお話のように思へます。今日は「遊戯」「唱歌」の本

質からお伺ひしたいし、リトミックも話題にとつていたゞき度うございます。

宇佐美先生のお話では外國では最近かなり、幼稚園で一般的に扱はれてゐるようですし、先日小林宗作氏のリトミックの研究發表會を拜見しましたも、これは私共として研究しなくつちやと思はれました。

堀 みて、何う感じたか話しなさいよ。

神原 困りましたね。これはよいと思ひますが、説明——よさを言ひ表はせませんけど。

倉橋 従來の子供の音楽は歌詞が主だ。歌に譜がついてるやうなものだ。リトミックでは、リズム

を主體として、しかも、それが全身的に經驗せられて來るところを主旨としてゐる。従つて、時には音樂教育以上人間教育上の効果を説いたりする人さへある。

神原 その發表會で見ますと、理窟でなしに子供はリズムを體に感じて反應して居りますの。

倉橋 我々のはリズムよりも歌詞を主にしてゐる。體へ感じるものでしょう。例へば、ベートベンがつんぽになつてからもいゝ作品が出來た。あゝいふ天才になると、我々とは違つた經驗のし方を音に對してしてゐるのでしょう。しかし、音が耳だけでなく、體全體、細胞から動いて來るといふことは凡人にもある筈だ。幼兒には尙更そうだらう。大人は觀念化されて駄目なるが、小さい時から修練を與へればそれが發達するに相違ない。だから、リトミックは音樂教育のためには有力なものです。但し、幼稚園ではどれ

丈の地位を占めるかは問題になる。リトミックの價値とリトミックの幼兒教育上の價値とは別の問題ですね。それを人間教育の根本とする論は、内容としてよりも、論の立て方として、どうかぬ。

神原 そんな論者がありますか。

倉橋 ありますよ。

リトミック専門家の方では、その根本理論はよく研究されて居よう。吾々はその方の素人だから。その根本を論ずるよりは、これを幼稚園教育に對しての問題として、考へるがよい。ところで、一體感受性の餘んまりセンシブルな教育をする事が、幼兒教育としていゝかどうか。これは問題になりますね。幼兒教育はセンシブルの反對、蠻的といつては荒つぽ過ぎるようだが、そんな處のあるべきものではないかしら。感覺といふさへ吾々は細かいと思ふ。知覺で止

めておきたい位だ。そこへゆくとリトミックの方は大分細い音楽性の訓練として有力なだけ、その點はどうか知ら。

神原 子供にしてゐるものは、そんな繊細なものぢやなさうです。

倉橋 實際はそうなるでしょうね。——だが何しろ見渡した處、リトミックを知らない、論ずる資格のない者ばかりが話してゐるのだから、之れは一つ誰か充分やつてみたらいいでしょう。

神原 今、この問題を出すのは早すぎますね、これぞさう上げて下さい。

堀 さりあげないでやつ見るんだ。貴女が出来なけりや程度が高いんだらう。

神原 私、やつて見ますわ。此の間からそう思つてゐました。音楽に耳がないといふ日本人だから音楽性を發達させるといふ意味で積極的によつていゝかと考へますが。

倉橋 それは大いにいい。音楽そのものとしてはね

我々は音といへば、音の物理學と生理的プロセスと、表象されたものときり知らない。音の一番肝心の所は多分知らないのだ。丁度我々が葡萄酒の味を知つてゐても、味といふものそれ自身を知らないのと同じだ。音となると尙更はげしい。だからリトミックをやつたにしても幼児教育を損ふ迄の程度なんかにゆきつこないから大丈夫でしょう。

堀 僕は音に對してセンシブルになることは必要だと思ふ。僕のように耳がだめだと、聞いて覺えることが出来ぬ。耳のよい者は語學は樂だ。

耳は幼少から訓練する必要がある。

倉橋 それはそうだが、程度の問題でね、餘り繊細すぎる感受性の教育は幼時期にはいらぬと思ふ

○

神原 リトミックはそれで切りあげて、今度は保育

論のABCを伺はせて下さい。唱歌について。

倉橋 つまり、幼稚園の唱歌は、音響藝術として聴かせるのが主か、又は、子供の音的表現活動を主にするのか。そこが問題なんでしょう。私は何れを主にするかといへば後の方だと思ふ。多少調子外れでも平気で歌つてゐるならばそれでもいい。ヘンな踊り方をしてゐても、それで満足な子は幸福だね。自分ぢやうまく踊つてると思ふところが、子どもの偉大さ。廿歳以上になつて餘りに偉大では馬鹿だがね。幼児の場合では自分の表現満足の方を主としなければならぬでしよう。

堀 表現満足が主だが、誤つた表現をしてゐる時は、正しい方に導いてやると。

神原 その表現のお手傳はむつかしい。そんな方法でやつてゐられる方がありませんか。

堀 子供の童謡に、子供の調子で節をつけて、子

供の踊りをさせればいい。幼稚園でその機会をつかむことはやり得る。

倉橋 先生が、音楽として正しく忠實に歌を歌ふ。それを聞いてゐる子供は何う感じてゐるかといふに、大ざつばな體驗で大ざつばにきいてゐる大ざつばなさゝ方だから表現も大ざつばになるつまり表現様式の程度に對しては、この「大ざつば」は循環する。だといつて、いゝ加減に歌つて聞かせてはますます大ざつばになる。子供は能力ある發達した人のような繊細な聞き方をしないが、或る感じは受けてゐるのだらうからね。つまり先生が歌つてやるのは、幼児の氣持が、先生のお蔭で表現出來るといふところにある。耳を聞いてやるのも結構だけれど、根底は、子供にある物を出してやる、搔ゆい所を搔いて満足させてやる、まあこれが幼児教育での主體でせう。一寸話が違ふが、社會事業に童

神原 ……………?

話聯盟といふのがある。その聯盟の人がいふのに、託兒所で用ふる童話に困つてゐるつて。今迄の童話ではあの境遇の子供にそぐはない。宮殿や、お姫様など貴族的な話許りでは、どうも

幼兒の持つてゐる氣持とあはない。まるで違つた世界やその心もちで出來た話はリアリステイクな感じが起らない。どうしても、子供の氣持を眞に代表する話でなくつちやといふことを言つてゐる。音樂についても同じことがいへる。

即ち、唱歌では先づ子供の氣持をうたつてやりたい。これが中心の本務だと思ふ。勿論これは歌詞ばかりぢやない。

神原 子供の氣持を歌つてやる！歌はせてやる！その道の藝術家でなくつちや出來ませんわ。

倉橋 「花をばとりてお土産にませう」とやつてゐるぢやありませんか。

せて行かふといふのはむづかしい。

倉橋 藝術そのものとしてそこまで行つたのをやるに越したことはない。そういふ天才が居てこさ

へてくれると一番いいが。兎に角、幼稚園の唱歌の第一義はさういふ所にある。音の世界を扱

つてゐるから音樂の問題と交つて來るが、音樂が下手なら他のものでやればいい。吃りの子供に對して、ベラ／＼しやべる時、その吃りの子供は何う思ふかと考へる。先生の流調な辯で胸のつかへの降りる感じのすると共に、山中の岩川が利根川に來たような違つた世界を感じやないかしら。極論すれば、幼稚園の唱歌は純藝術の意味での音樂教育にあらずか。

堀 教へる事に捕はれてゐるんだよ。幼稚園といふものは教へることは考へてゐない。教へる方は樂ですよ。こさへてある物を取次するだけだもの。子供の持つてゐる物を引き出して發達さ

神原 私共と見解を異にしてゐる人は分量からいつて随分多いようですが、一體我國の現在で、何んな潮流がございますの。私は此園で育つただけで存じませんが。

堀 豫定したものを教へると、このような生活主義と、その他は微々たるもの。幼稚園關係者は型に捕はれてラクに行かうとする。

神原 その生活主義でやつてゐましてね、一方その生活が健康に行つてゐるかどうか、一定の標準に照して生活診断を絶えずしてゐなけりや私の様な心配性はこゝろもとない。

倉橋 生活主義は洗ひさらつてみると、あ、こが、れ、て、すね。或は子供をみてゐての驚きです。しかし、生活主義で何をしてゐるかとなると、別室に退いて考へてみなくちやいけない。これに共鳴してゐる人は、あこがれが強いのみならず、今までのが生活を高調させてないことに對して反

動的にも同意して來る。そんなところがありません。生活主義は保育に限らず現代思想の一般さ。

神原 それはよく分りますの、生活主義でなくちやと思ひますの。現代人だから（一同笑ふ。若き連中同感）

倉橋 いくら生活のひらめきだからと言つても、生命を抜かずに、しかもくつきりさせることは我々に必要です。殊に生活で教育して行かうとするには。生活の本質ばかりでなく、内容を分析して見て、部分活動と全生活活動との交渉關係を研究することが大切ですね。その點を充分秩序的に考へないと、生活主義は一種の現代的反動論に終る危険があります。僕なども或は反動論者かも知れないね。

神原 反動論でなしに、第三者としてのを伺ひたい。
堀 世間ぢや、結局つかれたらけで、さて何う

していいのか分らないつて。

倉橋 言葉に過ぎないけれども、今迄やつてゐることでも、それを生きた生活の中においてみると違つて來るんだがね。

堀 さうとも。

倉橋 部分活動を部分活動としてやるのはやさしいがそれはそれだけのことだ。尤も一種の生活主義病者、生活々々といつて何にもしないのである、これは病態だね。生活は何か一つの時一つのことをしてゐるのだからね。

新庄 遊戯します時にね、右手あげて、左手を斯うしてと先生の真似をさせるあの方法、あれは何んなものでせう。幼稚園では他の場合ではあんな模倣の方法は致しませんのに。

神原 こんな話を聞いて考へさせられたのですが、「自由に畫を描かせるように、何故遊戯に於いても自由に踊らせるようにしないのか。」と

遊戯の型を既に知つてゐるので自由勝手に出來ないのかも考へますが、遊戯ではこの自由にするといふことが出來にくいようですが。

倉橋 それは面白い疑問だ。現代人は觀念化してゐるので、畫のような物には自在の表現が出来るので、遊戯などではそれが出來なくなつてるといふようなことも一つの難點ぢやありませんか原始人、野蠻人は描く事よりも、踊つたと書いてありますかね。但し之れが其疑問に對する答へのすべてとは勿論ありませんよ。

新庄 それにしても、あのやり方では如何かと……倉橋 ほんとにそうです。今言つたようなこと以上になつてゐるかも知れません。畫のような描寫藝術、材料を使つてゆく生活と我身をつかつてゐるものとは六つかしさが違ふのですね。

堀 指導の問題だ。指導の實際を見ようぢやないか。もうこの邊で切りあげよう。